

# 新年のびっあいさつ



明けましておめでとうございます。皆様にはこれからの一年への想い・願いを胸に、新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

国際社会の中で厳しい経済環境にあるわが国は、進行する少子・高齢化に加えて、急速な円高推移により企業の海外進出加速化へと国内経済のバイがより一層縮小する傾向にあり、国内経済の活性が大きな課題となっています。

このような時流の中で、本町の特徴であります「大山の恵み」、国立公園大山から日本海まで有する豊富な資源、産業・歴史・文化等を活かした

町づくりを通して「元気で安全・安心、そして安定」をテーマに、さまざまな取組みを進めています。本年は、昨年に取り組みをスタートした事業等

を具現化し、産業振興・地域活性・子育て支援・福祉の充実等へつなげていきます。そのおもなものとして、まず「元気」では、基幹産業で

あります農林水産業の育成強化です。特産品であるブロッコリー・梨・畜産物等の産地

次に観光交流産業の育成・強化では、さまざまな体験型・滞在型のビジネス展開として大山ツーリズムの推進に重点をおきます。大山スキー場一本化で民間運営による新たな魅力づくりや大山寺での温泉掘削による民間力と地元

の連携による活性化策への支援。また、本町のへの部分にある「山香荘」の活性化事業実施による交流人口増加策と地域経済活性への推進を考

えています。また、大山恵みの里計画として整備した道の駅・農産加工施設は、大山恵みの里公社運営により、経営の安定を基

さらに、住民の健康づくりとして疾病・介護予防の取組みが重要であり、行政と社協が連携をし、保健推進員・福祉推進員が連携して実施する

事業を開始し、集落内での助け合い、支え合いの取組みを推進したいと考えています。また異常気象やゲリラ豪雨

災害が頻発する昨今、自主防災組織の充実・体制づくりを強化しなければなりません。「安定」は総合計画後期基

本計画を策定し今後のまちづくりを進めると共に、昨年11月に答申いただいた大山町行

財政改革プランに基づき健全な行財政運営に努めます。このように、まちづくりに

はさまざまな課題・テーマがあり、その基本は住民の皆様と行政が一体となって共通の目的に向かって取組む住民視点のまちづくりです。それが次代につなぐ着実な一步一步と考えます。

## 大山町長

## 森田増範